

1 活動と成果の概要

当講座は、以下の4つのミッションを果たすため平成22年度から25年度までの4年間広島県の寄付講座として広島大学医学部に開設されました。また、平成26年度から2年間の延長も決まっています。

①地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会（啓発活動）

- ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

②地域医療課題の調査・研究

- 地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

③地域医療課題への対応

- 地域医療に求められる医療人（医師）養成・育成システムの立案・実施など

④地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援

- 広島県地域保健医療推進機構が行う業務に対する技術的助言・協力等

開設期間の4年間で各ミッションに対して以下のような成果を得ました。

①地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会（啓発活動）

広島大学医学部ふるさと枠の学内における制度運営、およびふるさと枠に所属する75名の学生の教育をおこないました。講座開設以降ふるさと枠の入試倍率は一貫して上昇しており、義務年限型の地域枠推薦入試としては全国でもトップクラス（約4倍）を維持しております。ふるさと枠学生の毎週の勉強会、春・夏・冬の実習や合宿を企画・実行し、地域医療への理解の促進と仲間意識の醸成を行っています。また一般医学科生への教育については、5年生全員を県内中山間地の病院に一週間派遣する地域医療実習の運営を行いました。約400名にこの実習を行い、ほぼ100%が地域医療をよりよく知ることができたと評価し、4分の1以上の学生について将来地域医療に従事する意向が増加しました。その他、3年生、4年生、6年生への講義も行いました。

②地域医療課題の調査・研究

広島県内医師の地理的偏在の研究、広島県における透析医療の地理的格差の研究、国民皆保険制度と医療アクセスの研究等を行い、4年間で28本の論文を発表いたしました。このうち24本はLancet、Social Science & Medicineなどの国際誌に掲載されました（合計インパクトファクター125）。また全国42大学が加盟している全国地域医療教育協議会の「地域枠出身医師のコホート研究」の本部として平成25年度からの実施に向けて文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議と共に準備を行っています。これら研究に対して研究代表者として総額1,144万円の文部科学研究費、30万円の民間研究助成金、14,000英ポンドの国外研究助成金を受けました。その他分担研究者として厚生労働科学研究費、文部科学研究費、民間研究助成金を受給しました。

③地域医療課題への対応

広島県および学内臨床系各講座と連携しながら、義務年限内のふるさと枠出身医師の進路を示した

「キャリアプラン」の作成を行いました。「キャリアプラン」は専門医育成プログラムを持つ学内27診療科のすべてについて作成いただきました。広島県、および本学総合内科・総合診療科と協力し、地域医療総合診療懇話会を計5回開催し、総合医の育成、地域医療の現状、地域医療教育などのテーマについて外部講師を招き、一般公開の講演会を行いました。第一回の中四国地域医療フォーラムを広島で開催し、中四国地方のすべての大学地域医療関連教員および県の医療政策担当者を一堂に会して地域医療を担う人材育成について討論しました。また広島で行われた第43回日本医学教育学会大会ではシンポジウム「地域医療教育の新たな展開」、および第38回医学教育セミナーではワークショップ「魅力アップのための卒前地域医療教育」を行いました。その他Faculty Development、地域医療学講演会など、地域医療教育のシステム作りに関する集会を主催しました。

④地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援

広島県地域保健医療推進機構の設置前に行われた準備委員会、および設置後の地域医療推進ワーキンググループ会議、若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県へき地医療支援機構運営委員会などにおいて当講座スタッフが委員を務めました。その他夏の地域医療セミナーを共同開催するなど当講座と推進機構とは常に緊密な連携をしています。また広島県地域保健対策協議会の地域医療従事者対策専門委員会、地域ケア促進専門委員会、医療を支える環境づくり特別委員会、医師不足対策専門委員会の委員として当講座スタッフが協議に参画しています。

2 講座スタッフ



教授 竹内 啓祐



准教授 松本 正俊



講師 服部 文子

事務 石川 典子

3 ミッションごとの活動と成果の詳細

ミッション

1

地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会

① ふるさと枠の運営・教育

①地域医療研究会（ふるさと枠セミナー）

講座開設直後の平成22年4月より昼食をとりながらふるさと枠全員でミーティングをしています。当初隔週一回行っていましたが、学生達の希望により現在は毎週一回行っています。医療面接の実習、実技の実習、臨床知識のミニ講義、現地実習のための準備、将来のキャリアプランや地域医療／総合医をテーマとした話し合いなどを行っています。ふるさと枠学生の将来への不安解消、モチベーション維持、アイデンティティーの確立、仲間意識の醸成につながるよう心がけています。地域医療に興味があるすべての学生に開放しており、ふるさと枠以外からの参加者もあります。当講座スタッフに加え、広島県地域保健医療推進機構スタッフ、本学医学部長の吉栖正生教授、総合診療科の田妻進教授にも参加いただきました。活動状況をテレビ1局に報道されました。





②夏季実習（地域医療セミナー）

毎年夏季休暇中に本講座、広島県、（財）広島県地域保健医療推進機構、広島県国民健康保険診療施設協議会の共催で地域医療現地実習を行いました。

平成22年8月19日、20日「島の医療を考える」と題して県内島嶼部9カ所の診療所で実習を行いました。参加者は本学ふるさと卒学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など35名で、4名ごとに分かれて各診療所で実習を行いました。2日目は大学に集合してワークショップを行い、島の医療について学んだことを共有しました。また、本学総合内科・総合診療科の横林賢一先生より家庭医療に関する講義をしてもらいました。実習後の評価では91%の学生が将来のへき地勤務に肯定的な回答をしていました。テレビ2局、新聞2社に報道されました。



地域医療セミナー2010



1日目
瀬戸内海5島9診療所にて
研修させていただきました



「広島大学医学部「ふるさと卒」の学生は、自治医科大学（熊本県）の学生らと共に、地域医療の現状を学ぶため、県内の島嶼部にある9つの診療所へ研修に訪れた。そのうち、県内の島嶼部にある瀬戸内海5島9診療所での研修に訪れた。」（熊本県山鹿市）

島の医療見て感じた
広大医学部の学生ら

【島の医療を考える】



2日目広大にて
ワークショップ



蒲刈診療所 濱崎圭三先生



伊藤医院 伊藤克浩先生



円山医院 円山忠信先生



島の救急艇見学

ときや内科 釈舎龍三先生



瀬戸田診療所 大西 毅先生



田村医院 田村 淳先生



永井医院 永井 晃先生



地域医療セミナーワークショップ

平成23年8月17日、18日 県内中山間地の医療機関12カ所で泊まり込みの実習を行いました。本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など48名が参加しました。2日目の最後は広島大学に集合してワークショップを行い、学んだことを共有しました。



平成24年8月22日、23日、県内中山間地の医療機関16カ所で泊まり込みの実習を行いました。本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など66名が参加しました。以下のようなコースを設け、3～6名ごとに分かれて各医療機関で実習を行いました。2日目の最後は広島大学に集合してワークショップを行い、学んだことを共有しました。

研修コースと対象医療機関					
Aコース 中山間地域での診療を学ぶ 		Bコース 島嶼部での診療を学ぶ 		Cコース 病院での診療を学ぶ 	
医療機関名	所在	医療機関名	所在	医療機関名	所在
吉和診療所(3)	廿日市市	越智医院(3)	呉市	安芸太田病院(5)	安芸太田町
雄鹿原診療所(3)	北広島町	蒲刈診療所(4)	呉市	公立みつぎ総合病院(6)	尾道市
大和診療所(4)	三原市	円山医院(4)	大崎上島町	沼隈病院(6)	福山市
甲奴診療所(4)	三次市	田村医院(4)	大崎上島町	神石高原町立病院(4)	神石高原町
総領診療所(4)	庄原市	瀬戸田診療所(6)	尾道市	庄原赤十字病院(3)	庄原市
				西城市民病院(3)	庄原市

() 内の数は参加学生数



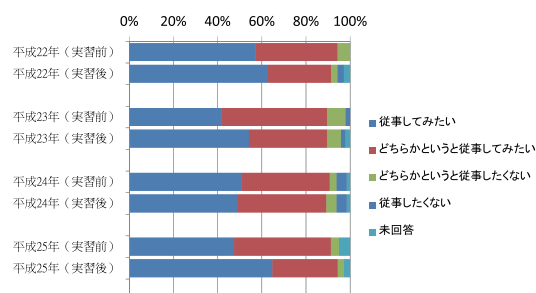


平成25年8月19～22日、県内中山間地の医療機関15カ所で泊まり込みの実習を行いました。本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など80名が参加しました。以下のようなコースを設け、4名ごとに分かれて各医療機関で実習を行いました。参加人数増加に伴い、この年は前半（8/19～20）と後半（8/21～22）に分けて行いました。最終日の午後は広島大学に集合してワークショップを行い、学んだことを共有しました。

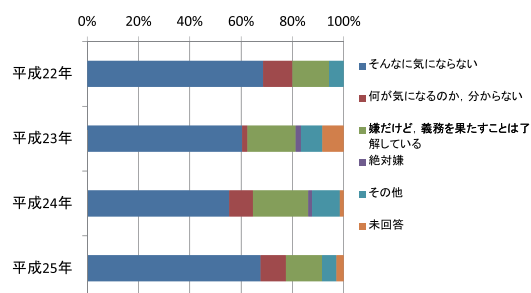
区 分	診療所コース		病院コース	
	医療機関名	所 在	医療機関名	所 在
西 部	吉 和 診 療 所	廿日市市	安 芸 太 田 病 院	安芸太田町
	雄 鹿 原 診 療 所	北広島町		
南 部	越 智 医 院	呉 市		
	円 山 医 院	大崎上島町		
	田 村 医 院	大崎上島町		
東 部	大 和 診 療 所	三 原 市	公立みつぎ総合病院	尾 道 市
	瀬 戸 田 診 療 所	尾 道 市	沼 隈 病 院	福 山 市
北 部	甲 奴 診 療 所	三 次 市	庄原赤十字病院	庄 原 市
	総 領 診 療 所	庄 原 市	西 城 市 民 病 院	庄 原 市
			神石高原町立病院	神石高原町



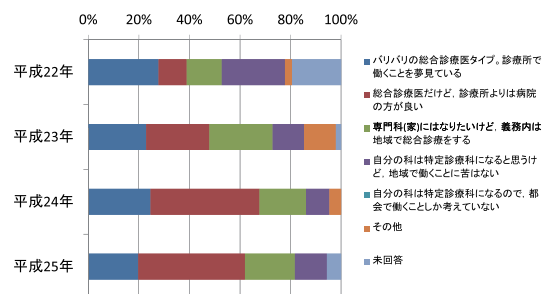
将来へき地に従事してみたい ですか？



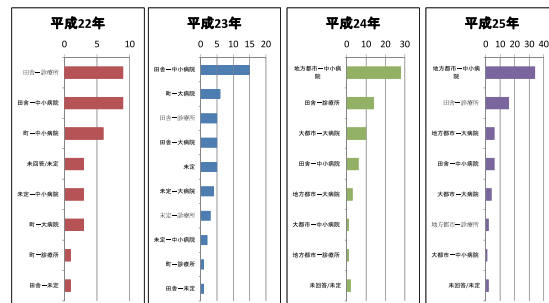
義務があることに関して、どのように 考えていますか？



今、自分が目指している方向性に近い ものを選んで下さい。



初期研修・後期研修が済んだ医師になって5-6年目の、いわゆる「油がのり始めた頃」に行きたいところはどこですか？その理由と併せてお答え下さい。



③冬季実習（冬合宿）

本講座と（財）広島県地域保健医療推進機構の共催で毎年冬期休暇中に合宿勉強会を行いました。

平成23年1月7日、8日「総合医について考える」と題して尾道市「みつぎふれあいの里」で一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふるさと卒学生28名でした。まず、みつぎ総合病院の見学を行いました。続いて、学生達が「総合医」についてグループで調査し議論した内容を発表し、特に優れていた2グループを表彰いたしました。またレクチャーとして、岡山大学地域医療人材育成講座の佐藤勝教授および米国アリゾナ州A Tスティル大学家庭医療科ロバート・ボウマン教授から家庭医・総合医のあり方について講演を行っていただきました。さらに本学総合内科・総合診療科の横林賢一先生より高齢者評価の実演もいただきました。97%の学生がこの合宿に満足し、同じく97%が総合医への興味が増したと評価しました。実習の様子はテレビ1局に報道されました。





冬合宿

平成24年1月7日、8日 神石高原町の神石高原ホテルで一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふるさと枠学生、本学一般学生、自治医科大学学生の計40名でした。以下の内容を実習しました。

- 地域医療に役立つ疫学（講義と演習2題）
- シネメデューケーション（映画「ディアドクター」を題材に医療問題を討論）
- Basic Life Support（BLS）の演習（HALS（Hiroshima Activities for Life Support）のメンバーによる指導）
- 新幹線の急病人（総合診療科横林先生によるロールプレイング）
- 神石高原町立病院見学



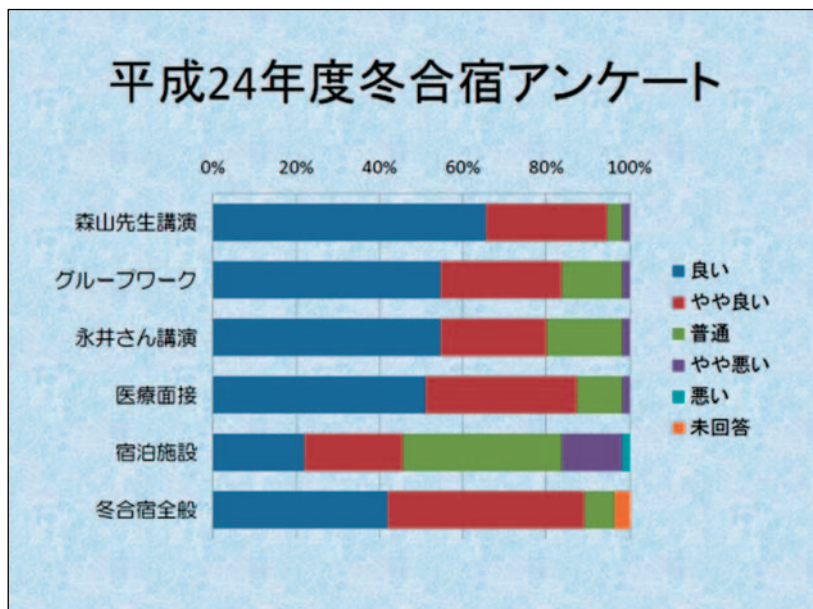


平成25年1月5日、6日、北広島町の豊平どんぐり村で一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふるさと枠学生、本学一般学生、自治医科大学学生の計56名でした。

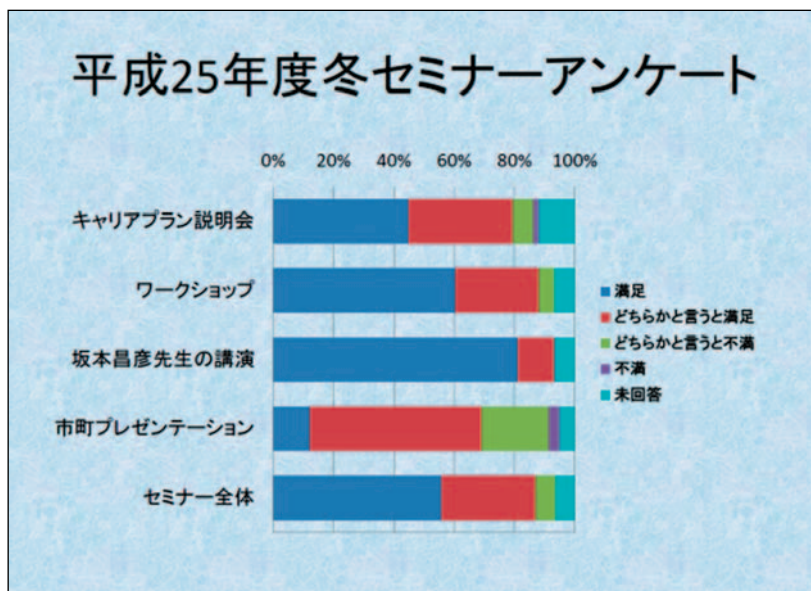
この冬合宿は例年と異なり、学生達自身が企画を行いました。「医師・医療に限らない視野／会話・スピーチ・発信能力」というテーマのもと、医師以外の講演者2名にもお越しいただき、以下の内容を行いました。

- 豊平病院見学
- 森山美知子先生（成人看護開発学教授）講演
- グループワークとプレゼンテーション
- 永井宏氏（NPO法人地域活性化プロジェクトチームGAMBO）講演
- 医療面接ロールプレイ





平成26年1月11日、12日、広島県庁において冬のセミナーを行いました。この年は広島市内開催のため合宿形式では行いませんでした。湯崎県知事の激励をいただき名刺交換会や写真撮影を行いました。今回のテーマは「将来像が見える化する」という事で、中山間地市町のプレゼンテーションやキャリアプラン説明会とともに国際医療で活躍している先生に講演していただきました。参加者は本学ふるさと枠学生、本学一般学生、県奨学生の計72名でした。



④海外研修

ふるさと卒学生に海外の地域医療について見聞を広めてもらうことを目的とし、海外研修を行いました。

平成23年8月22日～平成23年8月28日、4名のふるさと卒学生を引率してオーストラリアを訪問しました。オーストラリアは広大な国土を持ち、地域医療教育や地域医療のシステム化に関して多くの先進的な取り組みを行っている国です。フリンダース大学はオーストラリアで最も早くから本格的な地域医療教育を取り入れた大学であり、またその優れた成果は国際的に高く評価されています。

本実習ではこのフリンダース大学およびへき地にあるその関連医療機関を訪問し、オーストラリアの地域医療にじかに触れ、地域医療教育の現状について理解を深めました。アデレードのフリンダース大学医学部メインキャンパスにてPaul Worley医学部長と面談し、オーストラリアの地域医療の現状、および同大学が20年以上前から取り組んでいる地域医療教育について説明を受けました。その後レンマーク市にあるフリンダース大学Rural Clinical School（へき地キャンパス）において、同大学のJennene Greenhill教授から地域医療教育の詳細について説明を受け、医学部3年生のチュートリアルを視察、教員および医学生と昼食会参加、近隣にあるBerri Hospital視察、救急隊訪問、予防医療サービス視察、Greenhill教授、レンマーク市長およびレンマーク市ライオンズクラブ会長と夕食会に参加しました。さらにBarmera Medical Clinicを視察、Berri HospitalにてGP（家庭医）のDr Rohan Williamsとの昼食会にも参加しました。



平成24年9月21日～平成24年9月30日、ふるさと卒学生10名を引率し、ネパール研修を行いました。訪問先は以下のとおりです。

日 程	平成24年9月21日 ～ 9月30日
研修場所	ネパール
研修受け入れ者	樫戸健次郎
研修参加者	広島大学医学部医学科ふるさと卒1年生10名
引率者	地域医療システム学講座 松本正俊

研修内容	
9月21日	広島駅集合。関西国際空港より出国。
9月22日	バンコク経由でカトマンズ到着。市内観光。
9月23日	トリブバン大学医学部、看護学部、同大学附属病院訪問。小児病院訪問。バクタプル観光。
9月24日	KIST医科大学訪問。
9月25日	アンナプルナ脳外科病院訪問、チャバカオン診療所、アナンダバン・ハンセン氏病施療院訪問。
9月26日	ポカラに移動。
9月27日	ポカラ・ガンダキ病院訪問。
9月28日	カトマンズに移動。日本大使館訪問。JICA事務所訪問。
9月29日	カトマンズ空港より出国。
9月30日	バンコク経由で関西国際空港到着。広島駅にて解散。

現地で長く医療活動をしておられる楢戸健次郎先生に案内をしていただき、また広島大学に留学経験のある現地の医療者の方々にもお世話になりました。首都の大学病院や専門病院、地方都市の病院、へき地の診療所など様々な施設を訪れることができました。KIST医科大学では現地学生と交流し、プレゼンテーション等も行いました。

政情の不安定、貧困、大気汚染、水質汚染など、医療の枠を超えた問題によって様々な医療問題が生じているネパールの現状をつぶさに見ることができました。同時に、ネパール人の温かさ、自然の豊かさにも触れることができ、貴重な体験をいたしました。





⑤春季実習

毎年春季休暇中に泊まり込みの現地実習を行っています。春季実習は希望者のみの参加としています。

平成23年3月下旬、現地実習希望学生を対象に春季実習を実施しました。廿日市吉和診療所、雄鹿原診療所、甲奴診療所、大和診療所、府中北市民病院において、1～2名ずつ計7名の学生がお世話になりました。1泊2日で外来診療、在宅医療などを見学実習いたしました。

平成24年3月下旬、計14名が1～3名ずつ中山間地域の7施設を訪問し、原則1泊2日の実習をさせていただきました。施設ごとに特徴的なプログラムを作成していただきました。（ご協力いただいた施設：尾道市立瀬戸田診療所、安芸太田病院、公立みつぎ総合病院、公立世羅中央病院、甲奴診療所、広島西医療センター、大和診療所）

平成25年3月下旬、昨年同様、計14名が1～4名ずつ中山間地域の7施設を訪問し、原則1泊2日の実習をさせていただきました。（ご協力いただいた施設：尾道市立市民病院附属瀬戸田診療所、公立みつぎ総合病院、甲奴診療所、大和診療所、雄鹿原診療所、市立三次中央病院、庄原赤十字病院）

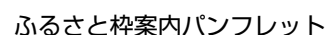
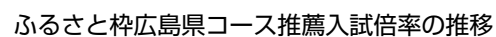
平成26年3月下旬にも同様の実習を予定しています。



平成25年3月 瀬戸田診療所にて実習

平成24年から25年にかけてふるさと枠の現1～4年生全員に対し、学生2名と教員1～2名が昼食を伴にする形式で面談を行い、学業のこと、大学生活のこと、将来の進路のことなどを相談しました。現5年生（最上級生）については一人一人について教員2名で個別面談を行い、初期臨床研修やその後の進路のことなどを指導・相談しました。

北高校、近大付属福山高校、AICJ高校、府中高校、世羅高校、呉三津田高校。当講座開設直前の平成22年の入試では2.3倍まで落ち込んだ入試倍率ですが、当講設置期間の4年間については全国の地域枠推薦入試の中でもトップクラスの倍率を維持しています（3.9～4.4倍）。



⑤ 一般医学科生の教育

①5年生地域医療実習

一般医学科5年生に対しては平成22年度よりクリニカル・クラークシップの一環として、中山間地の病院に一週間泊まり込みで行う地域医療実習を開始致しました。

平成22年度は5年生99名全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、文科省のモデル・コア・カリキュラムを参考に、各病院の特徴をだしたプログラムを作成しました。当講座スタッフも週2回現地に赴き学生教育に携わりました。テレビ4局、新聞3社、雑誌1社に報道されました。100%の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると37%が地域医療に興味が増し、27%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。

病気だけでなく、人をみていた

広大医学部生、過疎地の病院で実習



宮本講師が
を聞く様子
ん（左端）
ら2人巨
芸太田桐蔭

「気持ちは病
もしない。だ
と、検査したら
瘻しているみ
炎の薬もしま
内科の高本真
人尊らこの高
親類に説明し
に、一人尊ら
ている介護サ
活よりを詳し

広島大学医学部は今年度から、5年生全員が琉球地の
滞問の実習に臨んでいる。最先端の医療を学ぶ大学病院
生民と向き合う地域医療を学ぶのが狙いだ。久松太田町
病院で6月初旬に実習した学生2人を取材し、地域医療
なさがしとどう変わったか聞いた。

（綿）

過疎地の医師定着へ初の試み



現場体験やりがい
醸成

1990年12月25日 上海新聞出版社出版

どうする
也或医療

広島大学医学部の中山間地臨床実習

邊境地域への非軍事的な訪問許可を拒絶するに足る実効的證據が、日本に乏しかった。また、太平洋は領土問題の激化を招きかねない状態となつた。結果として、やむを得ず、朝鮮半島を通過するのが目的の正統大勢の試みは、地盤薄弱の粗い手裏剣となつた。東洋の地盤を求めた。

受け入れ側も
相乗効果期待

過疎地域で体験実習

法島大医学部が初 医師定着を目指す



汪君亦十字病院で開業。開業後に代わ
は、田嶋頼通さん(24) 短期診療から開業医
に広島市南区一丁目田嶋さん(23)も同じが
を叩く実情などを学
一応院長が「患者と家
同様に、経験を通

にわたって学ぶ。同大と県が本年度に開設した看護医製システム看護院が招き、高原町立病院のいすゞから実習する。診療所が少ない地域の中核病

日、庄原市の庄原赤十字病院などで始まった。医師科5年の全99人が広島県内の病院にある感染診療所の往診業務に当たる。10月

どうする
地域医療

マスコミ
・テレビ
・新聞
・雑誌

報道局 4局
3社
1社

マスコミ報道

・テレビ局

・新聞

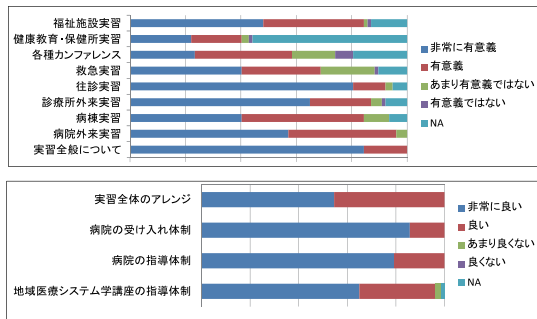
・雑誌

4局

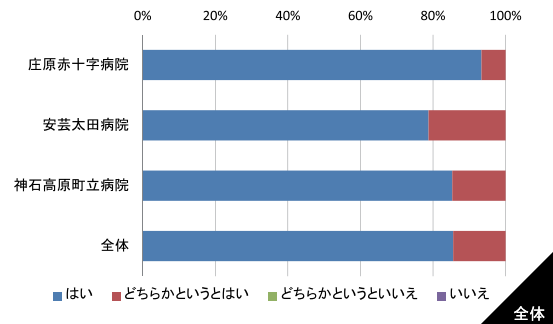
3社

1社

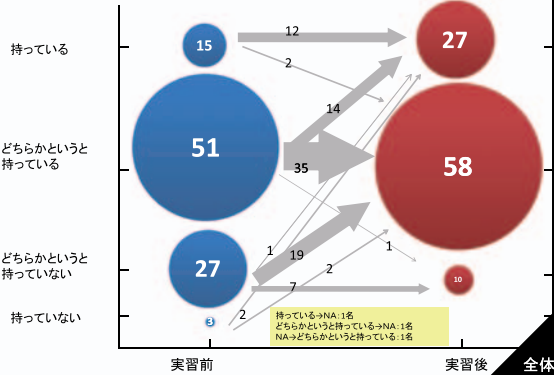
学生から実習施設への評価



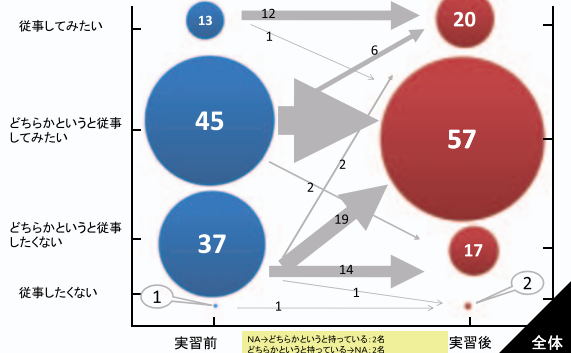
実習を受ける前と比べて、地域医療
をよりよく知ることができたか



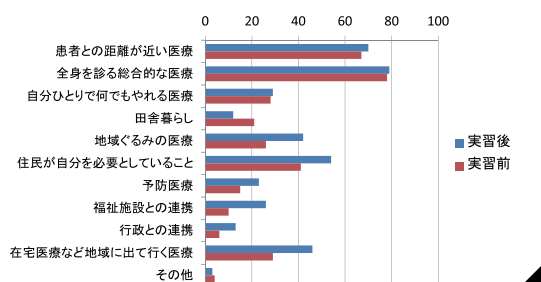
地域医療に興味を持っているか



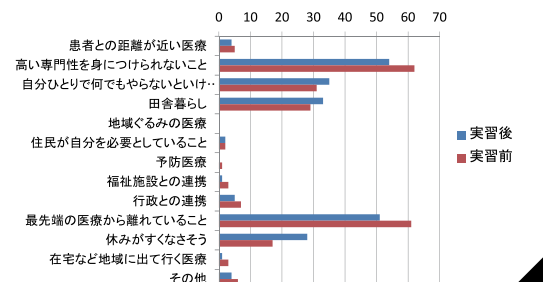
あなたは将来、地域医療に従事してみたいか
(時期・期間は問わない)



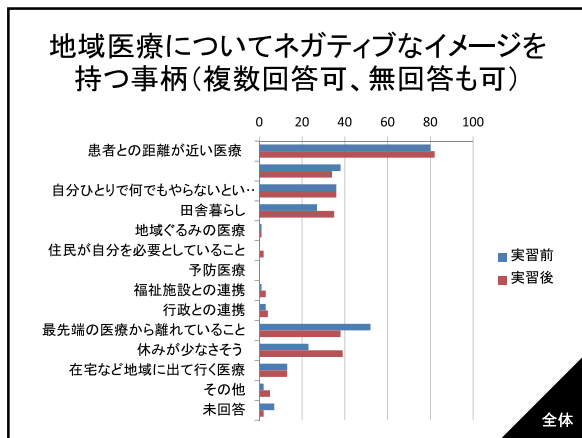
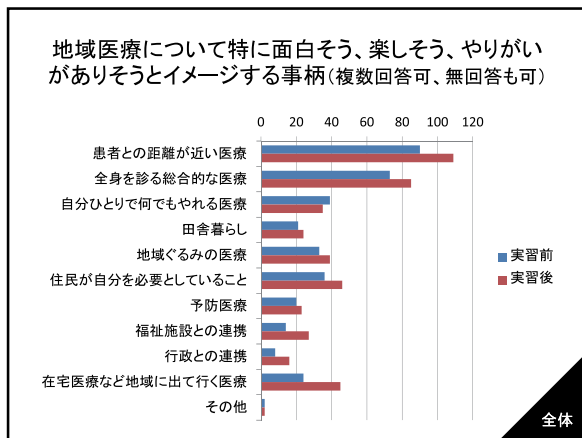
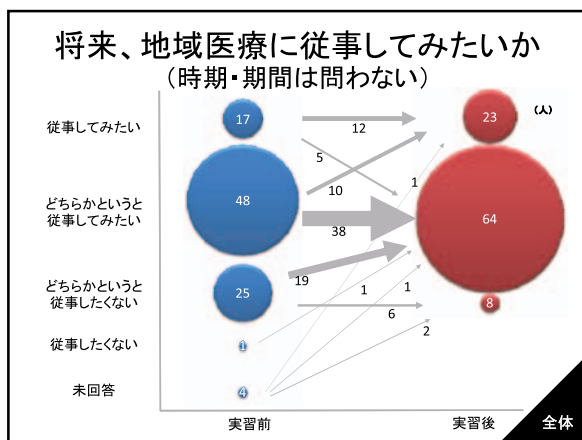
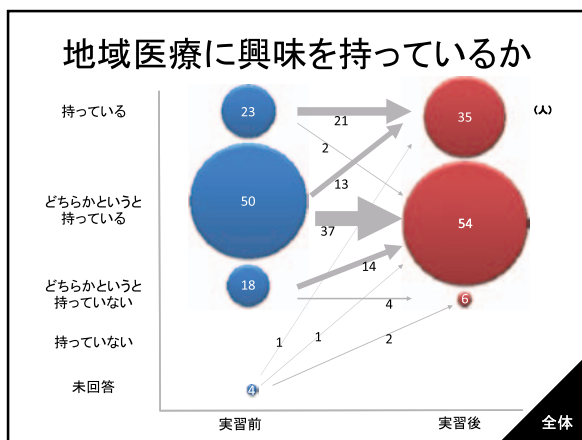
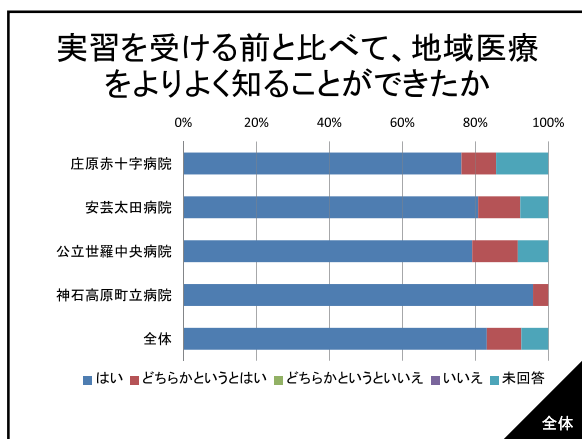
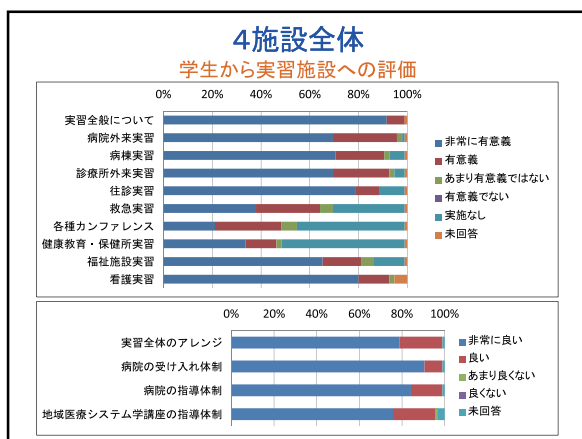
地域医療について特に面白そう、楽しそう、やりがいがありそうとイメージする事柄(複数回答可、無回答も可)



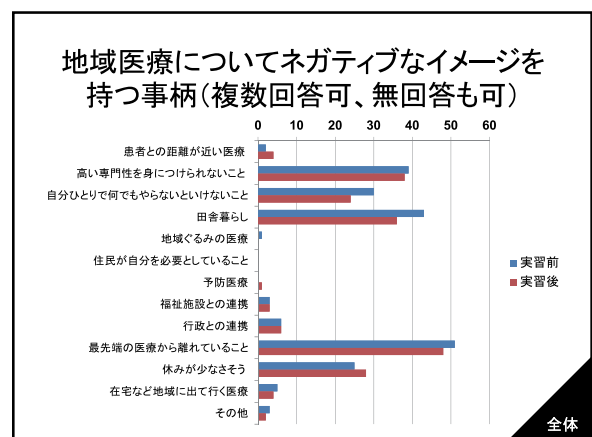
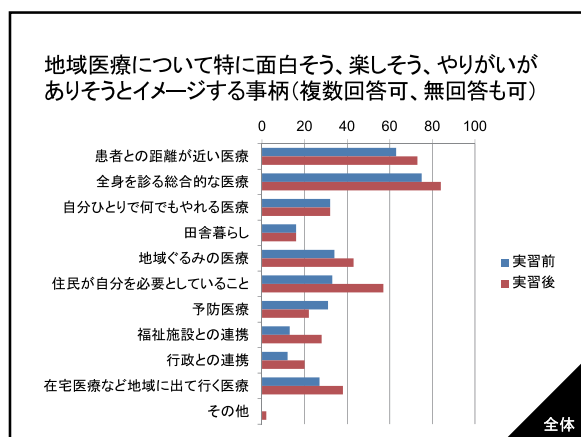
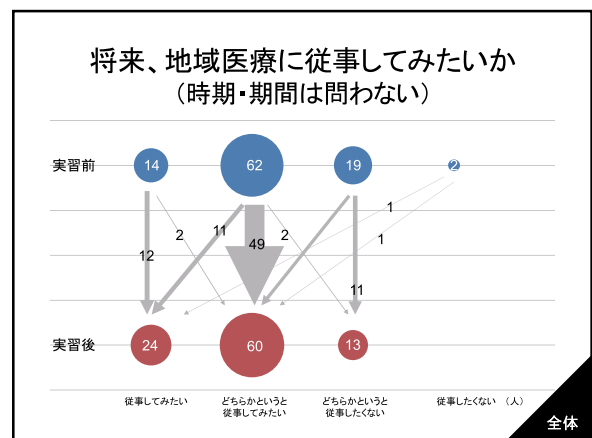
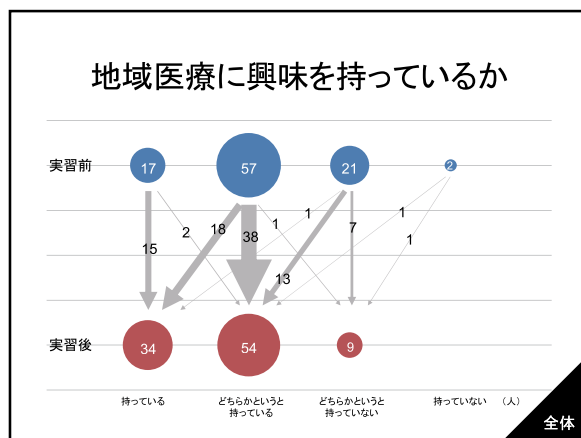
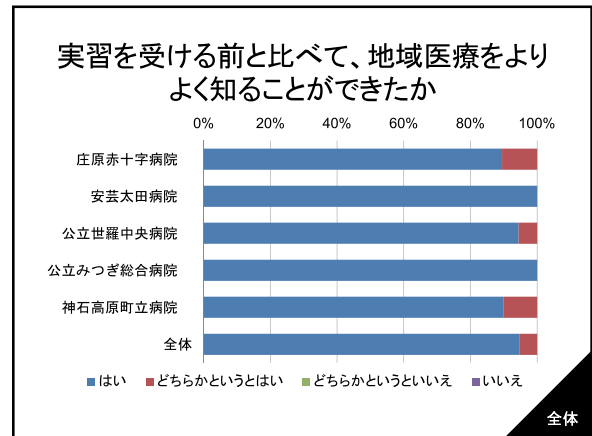
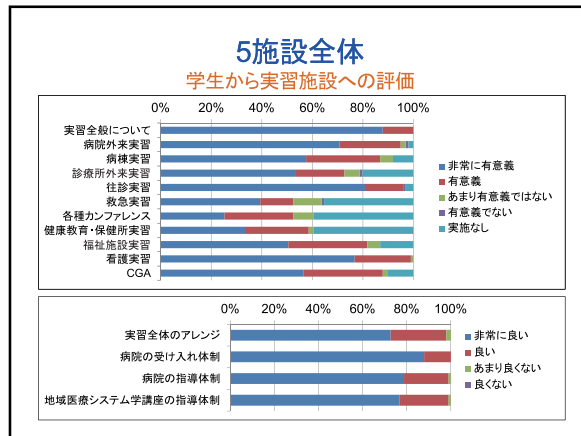
地域医療についてネガティブなイメージを持つ事柄(複数回答可、無回答も可)



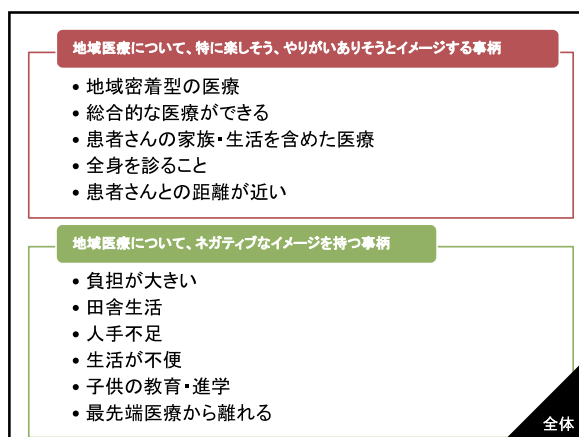
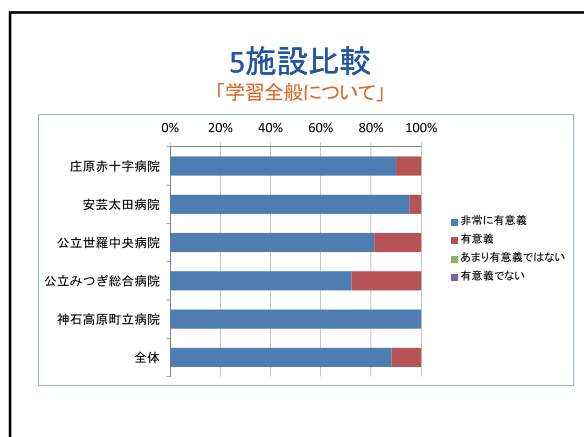
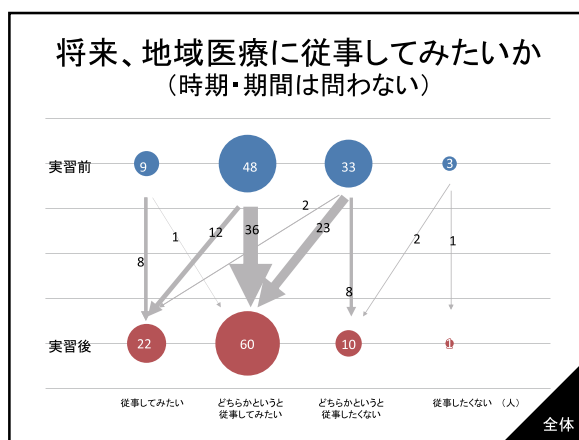
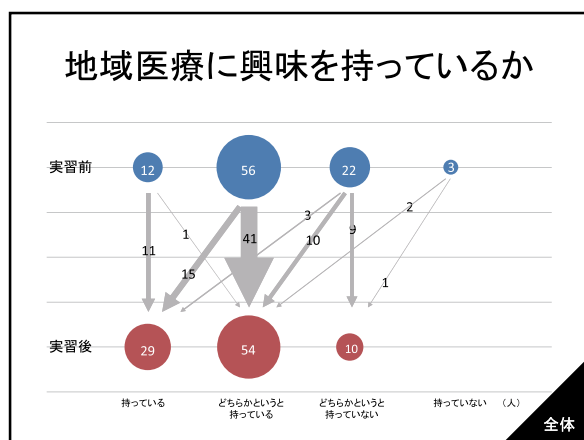
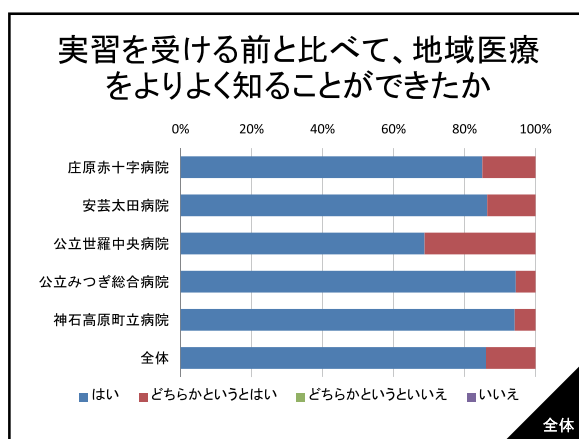
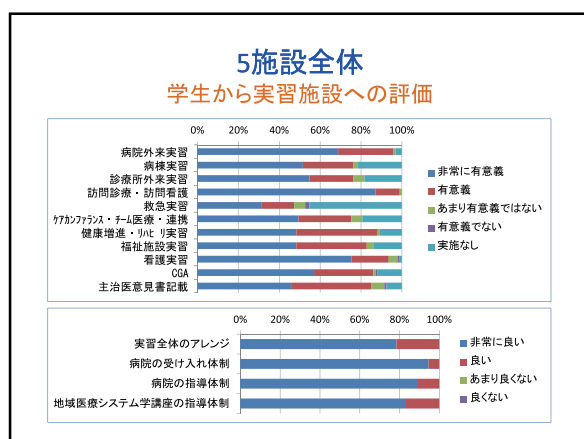
平成23年度は実習施設が4か所に増え、5年生全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、各病院にプログラムを実行していただきました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると33%が地域医療に興味が増し、36%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。



平成24年度は実習施設が5か所に増え、5年生全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。今年度は看護実習と高齢者総合機能評価（CGA）を全病院で必修項目にしました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると34%が地域医療に興味が増し、21%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。



平成25年度も庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、みつぎ総合病院の5施設で実習を行いました。今年度は介護保険の主治医意見書作成も必修項目に追加しました。例年どおり当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると33%が地域医療に興味が増し、42%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。



②6年生講義

平成22年、臨床実践学講座において、「こんな人たち地域医療に集合！」というタイトルで、プライマリ・ケア／総合診療／地域医療について、広島県および日本の地域医療の状況、医師の偏在などに関する講義を1コマ行いました。

平成23年も「こんな人たち地域医療に集合・国試の地域医療問題で満点をとる」というタイトルで、プライマリ・ケア／総合診療／地域医療について、広島県および日本の地域医療の状況、近年の医師国家試験の地域医療分野の傾向と対策の講義を1コマ行いました。またこの講義中に昨年度の地域医療実習の優秀レポートの表彰を行いました。

平成24年の臨床実践学講座では「地域医療の「学」と「楽」」というタイトルで、帝京大学医学部地域医療学の井上和男教授に講義いただきました。またこの講義中に昨年度の地域医療実習の優秀レポートの表彰を行いました。

平成25年度も帝京大学の井上和男教授に「地域医療の「学」と「楽」」の講義をしていただきました。講義中に昨年度の地域医療実習の優秀レポートの表彰を行いました。



帝京大学 井上教授講義

③4年生講義

平成22年度、23年度、24年度、25年度と臨床実習入門プログラムにおいて、地域医療実習に関する講義を竹内、松本がそれぞれ1コマずつ行いました。また平成24年度と25年度は帝京大学の井上和男教授にも1コマ担当いただき、事後の学生アンケートでは、臨床実習入門プログラム20余りの講義うち最も人気の高い講義に選ばれました。

④3年生講義

平成23年度、24年度、25年度と器官・システム病態制御学において、竹内は「地域医療」と題して日本国内の地域医療の現状や総合医育成の動きについて、松本は「世界の地域医療」と題して諸外国の地域医療の実情について説明しました。また愛媛大学地域医療学講座の川本龍一教授にお越しいただき愛媛県の地域医療の現状と対策について講義していただきました。

⑤1年生講義

平成24年度、25年度と医学科1年生を対象に竹内が「高齢者医療における倫理」と題して講義しました。

⑥4年生公衆衛生学実習

平成22年9月～10月、公衆衛生学実習の担当講座（公衆衛生学教室と共同）として医学科4年生2名を受け入れ、研究指導を行いました。学生2名はウェブ上に公開されている厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」および「患者調査」のデータを使って、広島県内の地域別・診療科別の医師数の推移を分析しました。この実習後、データを厚生労働省から取り寄せた「医師・歯科医師・薬剤師調査」の個票データに置き換え、さらに分析の精度を上げ、当講座の研究「広島県の医師分布に関する研究」として発展させました。

⑦4年生チュートリアル

平成22年度、医学科4年生全員に行うPBLチュートリアルの担当講座となり、シナリオ作成、チュートリアル実施監督、中間発表のとりまとめ、最終講義、レポート評価を行いました。また、他講座担当のシナリオでは竹内、松本がチューターとして参加しました。

⑧4年生臨床実習入門プログラム

平成23年度、24年度、25年度4年生臨床実習入門プログラムの企画、作成を行いました。また、プログラム内の採血実習、医療面接実習を担当しました。

⑨4年生共用試験OSCE

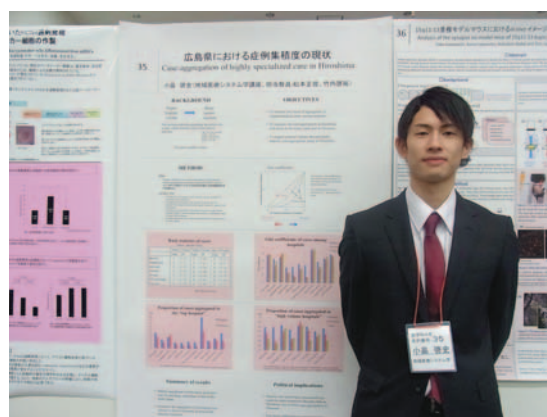
平成22年度、23年度、24年度の共用試験OSCE委員、25年度には竹内がOSCE実行委員長を務めました。

⑩1年生医療行動学

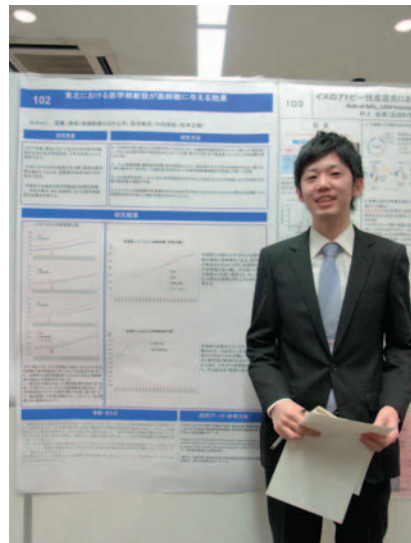
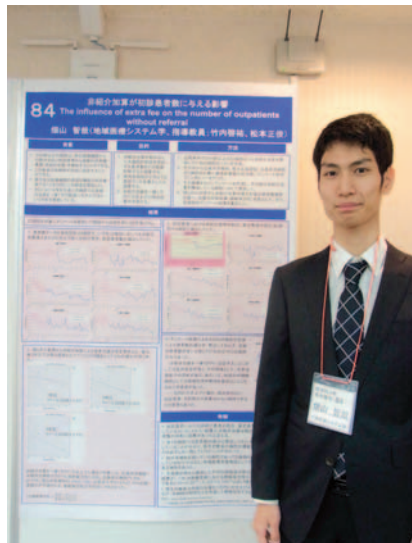
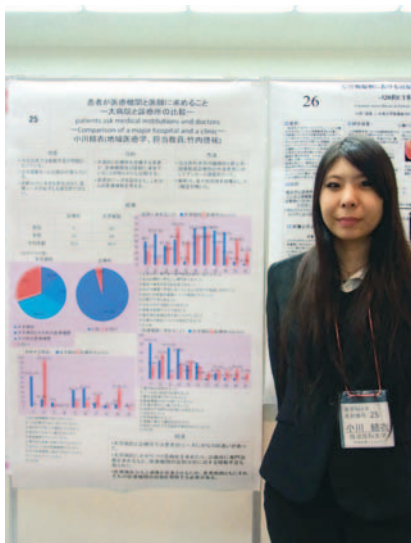
平成22年度、23年度、24年度、25年度医学科1年生を対象に医療行動学実習を5名ずつ2回実施しました。大学病院外来を患者の立場で移動して動線を確認し、患者受療行動や地域医療について話し合いました。

⑪4年生医学研究実習

平成24年度から本学で始まった医学科4年生の医学研究実習に参加し、2名の学生の担当講座となり、研究指導を行いました。2名の学生は尾道市瀬戸田地区における在宅死と介護に関するアンケート調査、および広島県内の悪性腫瘍手術症例の施設間分散度の研究を行いました。



平成25年度は3名を担当し、1名は広島県内の各病院にアンケート調査を行い、初診料引き上げが外来患者数に与える影響の研究を行いました。もう一名は1970年代の医学部新設県における医師数の増減データをもとに東北地方における医学部新設が医師数に与える効果の予測を行いました。また1名は自治医科大学に派遣いたしました。



⑫他大学講義

平成22年度、23年度に帝京大学医学部3年生に松本がへき地医療の講義を行いました。24年度、25年度は帝京大学公衆衛生大学院において松本がcensus dataの二次利用研究に関する講義を行いました。また25年度は山口大学医学部3年生に松本がへき地医療の講義を行いました。

⑬ 研修医教育

①藝州北部ヘルスケアネットワーク

平成21年より芸北地域等の医療支援を目的とした研修会が安佐市民病院土手慶五循環器内科主任部長を代表世話人として実施されてきましたが、推進機構の若手医師等育成支援事業助成開始を機に、会則を改め、当講座の竹内が顧問として企画に参加しています。

②広島大学病院の初期臨床研修医教育

平成22年度より広島大学病院総合内科・総合診療科の外来において、当講座スタッフが指導医となり初期臨床研修医の外来教育を行っています。

③卒後臨床研修管理委員会

上記委員として、医科研修医オリエンテーション「医療面接」や広島卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会のタスクフォースを務めています。

① 研究内容と成果

①広島県における医師の地理的偏在の研究

広島県内の医師の地理的分布を時系列で調べ、医師分布を規定している諸因子を明らかにしました。特に距離が医師の移動に与える影響、および県全体の医師不足が医師の移動に与える影響を、地理情報システムを用いた詳細な分析および長崎県との比較によって明らかにし、原著論文2本を出版しました。

Flow of physicians between urban and rural areas

		2002			
		Hiroshima		Nagasaki	
		Rural	Urban	Rural	Urban
2008	Rural	1061	228	836	175
		81.2%	7.6% ^a	85.4%	11.6% ^a
	Urban	245	2754	143	1329
		18.8% ^b	92.4%	14.6% ^b	88.4%
	Total	1306	2982	979	1504
		100%	100%	100%	100%

a: P value for difference <0.001

b: P value for difference p=0.037

都市部⇄へき地の医師移動に関する広島県と長崎県の比較

②地域医療政策および地域医療教育に関する研究

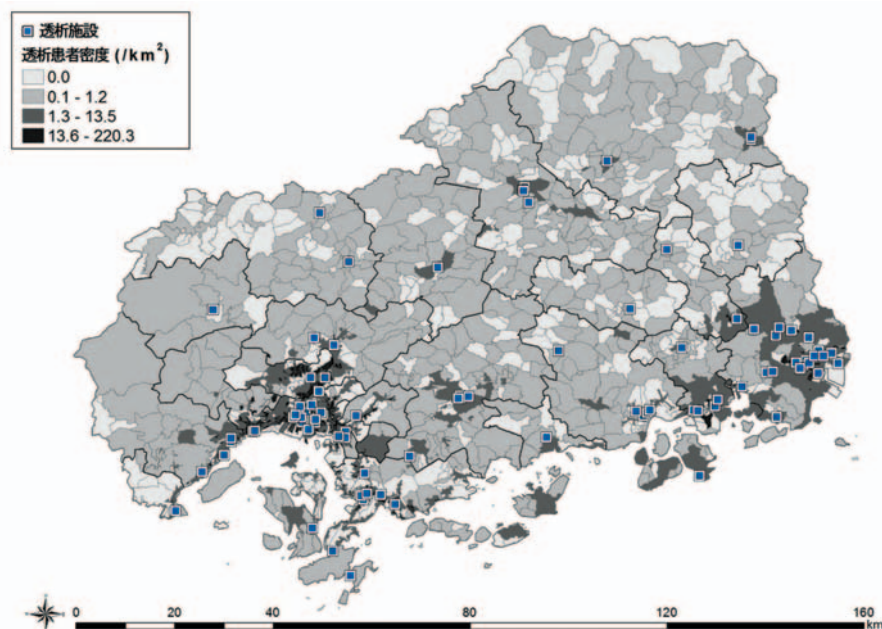
医師の地理的分布に関する日米英三カ国比較を行い、自由開業制や国民皆保険制といったわが国特有の医療制度が、医師の地理的偏在および診療科偏在に大きな影響を与えていることを明らかにしました。また、自治医科大学卒業医師のコホート研究を行い、へき地における医師確保に有効な学生選抜のあり方、医学教育のあり方、卒後教育のあり方を明らかにしました。原著論文6本、総説論文3本を出版しました。これらの研究成果は2010年に世界保健機構（WHO）が発表した「へき地・遠隔地での医療者確保のためのグローバル政策ガイドライン」において科学的根拠（エビデンス）として採用されております。



世界保健機構（WHO）の政策ガイドライン

③広島県の人工透析患者の地理的分布とアクセス格差の研究

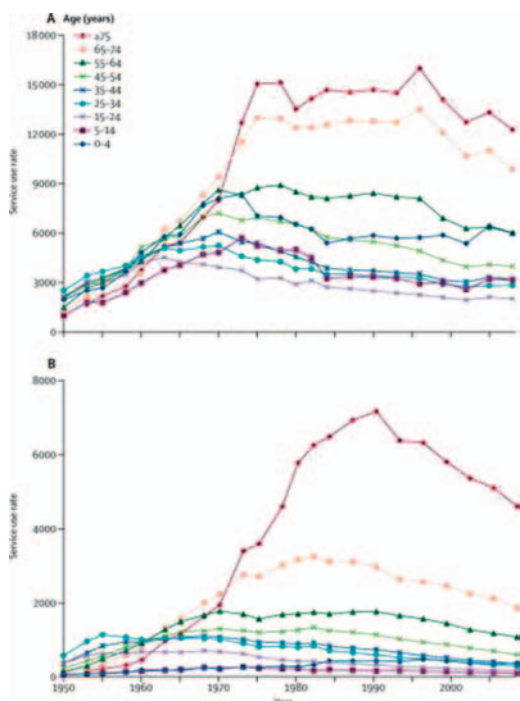
当講座、公衆衛生学講座、県立広島病院、県内各市村が共同し、県内の人工透析患者全数の地理的分布を調べ、地理情報システム（GIS）を用いて通院時間にどの程度地域間格差が存在しているかを明らかにする研究を行いました。3本の原著論文を出版しました。



広島県内の透析患者と透析施設の分布

④ランセット日本特集号

国民皆保険達成50周年を記念して『ランセット』誌で発表された論文「Japanese universal health coverage: evolution, achievements, and challenges」の分析チームに当講座が参加し、皆保険制度が社会に与えた影響の分析を担当いたしました。『ランセット』誌の200年近い歴史において、先進国について特集論文が掲載されるのは初めてです。また、同誌に当講座が執筆した地域医療教育に関するレターも掲載されました。



*Robbert J Duvvier, Matthew J Stull
robberduvvi@gmail.com

Faculty of Health Medicine and Life Sciences,
Maastricht University, 6200 MD Maastricht,
Netherlands (RJD); and Department of Emergency
Medicine, University of Cincinnati College of
Medicine, Cincinnati, OH, USA (MJS)

1. Wen LS, Groysen SR, Keszthelyi D, Braccio J, de Roos PDG. Social accountability in health professionals' training. *Lancet* 2011; **378**: e12-13.
2. Gruen RL, Campbell EG, Blumenfeld D. Public roles of US physicians: community participation, political involvement, and collective advocacy. *JAMA* 2006; **296**: 2467-75.
3. Earnest MA, Wong SL, Federico SG. Perspective: physician advocacy: what is it and how do we do it? *Acad Med* 2010; **85**: 63-67.

Quality of care in Japan: an additional strategy

Hideki Hashimoto and colleagues (Sept 24, p 1174)¹ suggest that the poor production system for primary-care physicians in Japan harmed the quality of outpatient care in communities. They propose an increase in primary care generalists, and the strengthening of each prefecture's discretion over health-care provision. Even though an increase in primary care physicians would redress the current maldistribution of physicians among specialties, equitable access to health care within the population cannot be achieved without geographically equitable distribution of physicians, particularly primary care

adopteed as chikiwaku, a subquota, by most Japanese medical schools. The number of entrants to these subquotas has now reached 1064 per year (13% of all entrants).²

The subquota and JMU physicians can potentially connect the two seemingly separate proposals put forward by Hashimoto and colleagues: specialty balance, and a prefecture's increased discretion. We propose that these physicians be trained as primary care physicians, and placed in underserved areas under the discretion of each prefectural government. This strategy would improve the equity of access while strengthening discretion and clarifying the responsibility of each prefecture.

We declare that we have no conflicts of interest.

*Masatoshi Matsumoto, Kazuo Inoue, Keisuke Takeuchi
matmo10@jb3.so-net.ne.jp

Hiroshima University, Hiroshima 734-8551, Japan (MM, KI); and Teikyo University, Tokyo, Japan (KI)

1. Hashimoto H, Ikegami N, Shibuya K, et al. Cost containment and quality of care in Japan: is there a trade-off? *Lancet* 2011; **378**: 1174-82.
2. Kobayashi Y, Takaki H. Geographic distribution of physicians in Japan. *Lancet* 1992; **340**: 1291-93.
3. Matsumoto M, Inoue K, Kaji E. A contract-based training system for rural physicians: follow-up of Jichi Medical University graduates (1978-2006). *J Rural Health* 2008; **24**: 360-68.
4. Education Center for Doctors in Remote Islands and Rural Areas, Kagoshima University. Strategies for educating rural sub-quota students. Kagoshima: The Center, 2010.

左図 Lancet 2011; 378: 1106-15より。国民皆保険達成前後での患者受療率の推移。Elsevier社より許可を得て掲載

右図 Lancet. 2011 378: e17より。地域医療教育に関する提言。Elsevier社より許可を得て掲載

⑤地域枠出身医師の進路に関するコホート研究

文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議の協力のもと、全国地域医療教育協議会（全国43大学の地域医療関連講座が加盟）の「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部として、全国の大学医学部・医科大学に所属する地域枠学生の進路を追跡する研究を進めています。平成24年11月に全都道府県および全大学医学部に対して事前調査を実施しました。平成25年4月から対象者本人への調査を開始予定です。

⑥その他研究

糖尿病、脳卒中、高血圧などの疫学研究に参加し、成果が論文として出版されました。米国の循環器専門医の地理的偏在に関する国際研究チームに加わり、成果が論文として出版されました。広島大学病院のCOPD患者の疫学研究を進めています。広島県地域保健対策協議会（地対協）の地域医療従事者対策専門委員として、広島県およびマッキンゼーが行った調査分析のアドバイスをを行いました。また、専門医の地理的分布に関する研究班のメンバーとして分析を担当しています。

㊦ 2010-2013研究実績一覧（2010-2013合計インパクトファクター 125.4）

■ 原著論文

1. Matsumoto, M., Inoue, K., Farmer, J., Inada, H., and Kajii, E. Geographic distribution of primary care physicians in Japan and Britain. *Health Place* 16 (1): 164-166, 2010.
2. Matsumoto, M., Ishikawa, S., and Kajii, E. Cumulative effects of weather on stroke incidence: a multi-community cohort study in Japan. *J Epidemiol* 20 (2): 136-142, 2010.
3. Matsumoto, M., Inoue, K., and Kajii, E. Definition of “rural” determines the placement outcomes of a rural medical education program: analysis of Jichi Medical University graduates. *J Rural Health* 26: 234-239, 2010.
4. Matsumoto, M., Inoue, K., Bowman, R., Noguchi, S., and Kajii, E. Physician scarcity is a predictor of further scarcity in US, and a predictor of concentration in Japan. *Health Policy* 95(2-3): 129-136, 2010.
5. Matsumoto, M., Inoue, K., Bowman, R., and Kajii, E. Self-employment, specialty choice, and geographical distribution of physicians in Japan: a comparison with the United States. *Health Policy* 96: 239-244, 2010.
6. Matsumoto, M., Inoue, K., Bowman, R., Noguchi, S., Toyokawa, S., and Kajii, E. Geographical distributions of physicians in Japan and US: impact of healthcare system on physician dispersal pattern. *Health Policy* 96: 255-261, 2010.
7. Matsumoto, M., Inoue, K., and Kajii, E. Policy implications of a financial incentive programme to retain a physician workforce in underserved Japanese rural areas. *Soc Sci Med* 71: 667-671, 2010.
8. Matsumoto, M., Ishikawa, S., Kajii, E. Rurality of communities and incidence of stroke: a confounding effect of weather conditions? *Rural Remote Health* 10 (3): 1493, 2010.
9. Ikegami, N., Yoo, B., Hashimoto, H., Matsumoto, M., Ogata, H., Babazono, A., Watanabe, R., Shibuya, K., Yang, B., Reich, M., and Kobayashi, Y. Japanese universal health coverage: evolution, achievements, and challenges. *Lancet* 378 (9796): 1106-1115, 2011.

10. Aneja, S., Ross, JS., Wang, YF., **Matsumoto, M.**, Rodgers, GP., Bernheim, SM., Rathore, SS., and Krumholz, HM Uneven distribution of cardiologists persists, especially in rural areas. *Health Affairs* 30 (12): 2301-2309, 2011
11. **Matsumoto, M.**, Inoue, K., Kashima, S., and **Takeuchi, K.** Does the insufficient supply of physicians worsen their urban-rural distribution? A Hiroshima-Nagasaki comparison. *Rural Remote Health* 12 (2): 2085, 2012.
12. **Matsumoto, M.**, Inoue, K., Kashima, S., and **Takeuchi, K.** Characteristics of physicians, their migration patterns and distance: a longitudinal study in Hiroshima, Japan. *Rural Remote Health* 12 (2): 2027, 2012.
13. **Matsumoto, M** (共筆頭), Ogawa, T (共筆頭), Kashima, S (共筆頭), **Takeuchi, K.** The impact of rural hospital closures on equity of commuting time for haemodialysis patients: simulation analysis using the capacity-distance model. *Int J Health Geogr.* 11 (1): 28, 2012.
14. Kashima, S (共筆頭), **Matsumoto, M** (共筆頭), Ogawa, T., Eboshida, A., **Takeuchi, K.** The impact of travel distance on a geographic distribution of dialysis patients. *PLoS One.* 7 (10): e47753, 2012
15. Inoue, K., Inoue, M., **Matsumoto, M.**, Akimoto, K. Persistent fasting hyperglycemia more predictive of type 2 diabetes than is transient hyperglycemia. *Diabet Med* 29 (7): e75-81, 2012.
16. Inoue, K., Kashima, S., Ohara, C., **Matsumoto, M.**, Akimoto, K. Concordance of two diabetes diagnostic criteria using fasting plasma glucose and hemoglobin A1c: the Yuport Medical Checkup Centre Study. *PLoS One.* 7 (10): e47747, 2012.
17. Ishikawa J, Hoshida S, Eguchi K, Ishikawa S, Shimada K, Kario K; **Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group.** Nighttime home blood pressure and the risk of hypertensive target organ damage. *Hypertension* 60 (4): 921-8, 2012.
18. Kashima S, Inoue K, **Matsumoto M**, Akimoto K. Do non-glycaemic markers add value to plasma glucose and Hemoglobin A1c in predicting diabetes? Yuport Health Checkup Center Study. *PLoS One.* 8 (6): e66899, 2013.
19. **Matsumoto M**, Kashima S, Ogawa T, **Takeuchi K.** Do “rural” and “remote” areas really have limited accessibility to health care? Geographic analysis of dialysis patients in Hiroshima, Japan. *Rural Remote Health* 13 (4): 2507, 2013.
20. Hatano Y, **Matsumoto M**, Inoue K, **Takeuchi K.** Rurality and participation in mass preventive health services: a nationwide descriptive study. *Hiroshima J Med Sci.* 62 (3): 43-8, 2013.

■ 総説論文

1. **Matsumoto, M.**, Inoue, K., Kajii, E., **Takeuchi, K:** Retention of physicians in rural Japan: concerted efforts of the government, prefectures, municipalities and medical schools. *Rural Remote Health* 10 (2): 1432, 2010.
2. 竹内啓祐 病院総合診療科における心療内科. 日本心療内科学会誌 15 (2) : 75, 2011
3. 竹内啓祐 広島県の地域医療の課題. 広島県内科会誌第12号 : 82, 2011
4. 松本正俊 医師の偏在に関する国際比較研究 (研究ノート) 医療と社会 21 : 223 - 233, 2011
5. 松本正俊、井上和男、竹内啓祐 : エビデンスに基づく地域医療教育 : 文献レビューと政策への適用 医療と社会 22 : 103 - 112, 2012
6. 服部文子 : SSRIによるセロトニン症候群のため、転倒・骨折を来した症例 : 症例から学ぶ高齢者の安全な薬物療法 ライフサイエンス2013年

■ エディトリアル

1. Matsumoto M, Inoue K: Earthquake, tsunami, radiation leak, and crisis in rural health in Japan. *Rural Remote Health* 11: 1759, 2011

■ ガイドライン

1. Matsumoto, M., Bowman, R., Worley, P. A guide to reporting a research paper in rural and remote health. *Rural Remote Health* 12: 2312, 2012

■ レター

1. Matsumoto, M., Inoue, K., and Takeuchi, K. Quality of care in Japan: an additional strategy. *The Lancet* 378 (9807): e17, 2011

■ 競争的外部研究費獲得

代表研究者として

1. 2010年 Research Grant, Great Britain Sasakawa Foundation 7,000英ポンド（代表松本）
2. 2010年文部科学研究費補助金（若手B） 208万円（代表松本）
3. 2011年 Research Grant, Great Britain Sasakawa Foundation 7,000英ポンド（代表松本）
4. 2011年文部科学研究費補助金（若手B） 208万円（代表松本）
5. 平成23年度サタケ教育研究助成 30万円（代表松本）
6. 2012年文部科学研究費補助金（若手B） 208万円（代表松本）
7. 2013-2017（内定）年文部科学研究費補助金（基盤C） 520万円（代表松本）

分担研究者として

1. 2012年厚生労働科研費補助金（分担服部）
2. 2013年厚生労働科研費補助金（分担松本）
3. 2013-2014（内定）年文部科学研究費補助金（基盤C）（分担松本）
4. 2013年ファイザー・ヘルスリサーチ研究助成（分担松本）
5. 2013年厚生労働科研費補助金（分担服部）

■ 学術誌編集

1. 2010年から学術誌Rural and Remote Healthのアジア地区編集長（Asian Regional Editor）を松本が務め、アジア地区からの投稿論文413本の採否決定を行った。

■ 受賞

1. 「修道医会第13回学術奨励賞」2011年7月（松本）
2. 「広島大学医学部Teacher of the Year 2011」2012年3月（松本）

■ 招待講演等

1. 竹内啓祐「中山間地域医療の光明」庄原地区講演会（平成22年7月15日：庄原グランドホテル）庄原地区医師会主催参加者、参加者約100名
2. 竹内啓祐「地域とともに歩む医療—地域に密着した医療提供と人材育成—」神石高原町講演会（平成22年8月27日：三和の森カンファランスセンター）神石高原町、社会医療法人社団陽正会主催、参加者233名

3. 竹内啓祐「中山間地域医療の支援システム」国保連合会講演会（平成22年12月3日：国保会館 大会議室）国保連合会主催、参加者約40名
4. 竹内啓祐「必修地域医療実習のABC」自治医科大学シンポジウム2011（平成22年1月30日：東京都道府県会館）自治医科大学主催
5. 竹内啓祐「中山間地域医療の新たな展開」佐伯区医師会講演会（平成22年2月8日：佐伯区民文化センター）佐伯区医師会主催
6. 竹内啓祐「地域医療先進病院を目指しませんか！」県立安芸津病院講演会（平成23年3月8日：県立安芸津病院講堂）県立安芸津病院主催
7. 松本正俊“Rural health in Japan: evidence and prospects.” Rural Health Research Conference, Centre for Rural Health, University of Aberdeen, Scotland, UK, July 2010 参加者約30名
8. 松本正俊 ランセット特集号メディア会合（記者会見）（平成22年6月15日：東京）財団法人日本国際交流センター主催
9. 松本正俊「医師数および医師の地理的偏在に関する国際比較研究」ファイザー・ヘルスリサーチフォーラム（平成22年11月6日：東京）ファイザー・ヘルスリサーチ振興財団主催、参加者約100名
10. 竹内啓祐 シンポジウム「地域医療教育の新たな展開」企画／座長、第43回日本医学教育学会大会（平成23年7月23日：広島国際会議場）
11. 竹内啓祐「地域で総合医を育てる」第10回藝州ヘルスケアネットワーク（平成23年10月21日：広島市立安佐市民病院）
12. 竹内啓祐「「総合診療科」について」広島記念病院地域医療従事者研修会（平成23年11月24日：広島記念病院）
13. 竹内啓祐「広島大学地域医療システム学講座の現状と課題」地域医療マネジメント研究会（平成23年12月15日：鳥取大学医学部）
14. 竹内啓祐 シンポジウム「ご存じですか、在宅療養における訪問看護の役割」企画／座長、市民公開講座（平成24年1月22日：中国新聞ホール）
15. 竹内啓祐「生口島地域ケアネットワークづくり」平成23年度地域ケアフォーラム（平成24年3月20日：尾道市瀬戸田福祉保健センター）
16. 松本正俊「わが国の医師の地理的分布について：医学部地域枠の現状も含めて」第28回日本医学会総会 東京2011（震災のため集会中止：DVDに収録）
17. 松本正俊「家庭医のための研究入門」（平成23年10月15日）第3回中国四国ブロック家庭医療後期研修プログラム交流会
18. 松本正俊「地域医療教育のエビデンス」（平成23年7月22日）第43回日本医学教育学会シンポジウム「地域医療教育の新たな展開」
19. 松本正俊「開業医と研究・広島大学の地域医療教育」（平成24年4月9日）第214回安佐医師会内科会（広島市）
20. 松本正俊「総合医と研究」（平成24年4月21日）自治医科大学広島県人会（白亜会）（広島市）
21. 松本正俊「いかに研究を学ぶか：弟子の心得」（平成24年8月25日）第1回プライマリケア多職種のための臨床研究ワークショップ（東京大学）
22. 松本正俊「広島県における①医師の地理的偏在②透析患者のアクセス格差」（平成24年9月15日）「社会格差と健康」第六回定例研究交流会シンポジウム（東京大学）
23. 松本正俊 Health system in Japan. (Sep 24, 2012) KIST Medical College, Kathmandu, Nepal
24. 竹内啓祐「地域枠の現状と将来の課題」（平成24年6月23日）新潟大学医学部医科系関連教授懇談会

25. 竹内啓祐「地域医療医の立場から見た健康観・幸福観」(平成24年9月30日)第9回広島保健学会学術集会第13回広島保健福祉学会学術集会合同学会(広島大学)
26. 竹内啓祐「医療と介護の連携「広島モデル」の構築に向けて」(平成24年10月18日)広島市西区地域保健対策協議会講演会(広島市西区)
27. 竹内啓祐「生口島地域の絆力と底力」(平成24年10月31日)瀬戸田福祉保健センター講演会(尾道市瀬戸田町)
28. 竹内啓祐 シンポジウム「みんなで築こう 老後安心して住める地域を」座長、広島県地域包括ケア推進フォーラム(平成24年11月3日、広島国際会議場)
29. 竹内啓祐 シンポジウム「日本の国情・2次医療圏の実状を熟慮して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2012」座長(平成24年11月17日、秋田大学)
30. 竹内啓祐「高齢者医療における倫理的ジレンマ」(平成25年1月29日)中国労災病院講演会(中国労災病院)
31. 竹内啓祐「自分たちで守る 日本一のケアシステム」(平成25年3月17日)おのみちの地域医療を考える市民公開講座(尾道市因島中庄町)
32. 竹内啓祐「自分たちで守る 日本一のケアシステム」(平成25年3月24日)おのみちの地域医療を考える市民公開講座(尾道市総合福祉センター)
33. 竹内啓祐「地域包括ケアにおける医療と介護の連携について」(平成25年3月26日)多職種連携推進研修会(神石高原町)
34. 松本正俊 地域枠と総合診療：エビデンスと事例紹介 第7回日本病院総合診療医学会(平成25年8月30日、広島市)
35. 松本正俊 総合診療医と研究：アカデミック総合診療医とは何か？ 第7回日本病院総合診療医学会 広島市(平成25年8月30日、広島市)
36. 松本正俊 総合診療医と研究：まずsmall researchから始めよう 飯塚病院院内勉強会(平成25年11月16日、福岡県飯塚市)
37. 竹内啓祐「地域医療の安心システム」(平成25年4月11日)庄原市休日診療センター開設記念講演会(庄原市)
38. 竹内啓祐「地域医療人材育成の実状と今後の方向性」(平成25年5月14日)広島県議会地域医療健康対策特別委員会(広島県議会議場)
39. 竹内啓祐「胃瘻の倫理的問題」(平成25年6月8日)第21回瀬戸内福祉と医療を語る会(広島市)
40. 竹内啓祐「地域包括ケアにおける医療と介護の連携について」(平成25年7月22日)第16回在宅医療・介護保険研修会(広島市中区)
41. 竹内啓祐「広島大学の医師派遣状況について」(平成25年8月2日)平成25年度医師等確保対策研究協議会(広島県国民健康保険診療施設協議会)
42. 竹内啓祐「地域医療と総合診療～地域枠をどう育てるか～」座長(平成25年8月30日)第7回日本病院総合診療医学会(広島市)
43. 竹内啓祐 県民公開講座「地域リハビリテーションをすすめよう」司会進行(平成25年9月7日)広島県地域包括ケア推進センター(広島大学広仁会館)
44. 竹内啓祐「在宅医療の現状と今後の展望について」(平成25年9月16日)在宅医療推進医等育成研修Ⅰ(広島市)
45. 竹内啓祐 第16回鹿児島地域医療教育報告会座長(平成25年9月24日、鹿児島大学医学部)
46. 竹内啓祐「安心・ぬくもりのまちの実現のために私たちのできる事」(平成25年10月10日)地域包括支援センターみよし開所記念講演会(三次市)

47. 竹内啓祐「地域包括ケアシステム構築で老後安心して住める地域を～地域の絆～」座長（平成25年10月26日）地域包括ケア新フォーラム（広島市）
48. 竹内啓祐「超高齢社会における医師の役割」（平成25年10月30日）地域包括ケア推進事業等助成事業（東広島市）
49. 竹内啓祐「地域医療と総合診療」（平成25年11月19日）第9回大分家庭医療研究会（大分市）
50. 竹内啓祐 在宅医療推進医等リーダー育成研修Ⅱ講師（平成25年11月24日：中区、平成25年12月7日：安芸地区、平成26年1月19日：安佐地区、平成26年2月9日：東区、平成26年2月23日：南区、平成26年3月2日：西区、平成26年3月30日：佐伯区）
51. 竹内啓祐「住み慣れた地域でその人らしく最期まで」（平成25年12月8日）有床診療所の日記念県民フォーラム（広島市）
52. 竹内啓祐「地域医療と総合診療」（平成25年12月12日）吉島病院オープンカンファランス（広島市吉島病院）
53. 竹内啓祐「在宅医療の現状と今後の展望について」（平成25年12月23日）在宅医療推進医等育成研修Ⅰ（福山市）
54. 服部文子 神石高原町立病院の物忘れ外来 神石郡介護支援専門員連絡協議会第2回定例研修会（平成25年11月18日 神石高原町）
55. 服部文子 認知症の医学的理解、神石高原町立病院の物忘れ外来 神石高原町認知症対応職員実践講座（平成25年12月4日 神石高原町）
56. 服部文子 認知症のおはなし 神石高原町認知症介護者教室（平成25年12月18日 神石高原町）

■ 学会発表

1. 松本正俊「医師の地理的偏在に関する国際比較研究」第69回日本公衆衛生学会総会（平成22年10月28日：東京国際フォーラム）
2. 竹内啓祐「病院総合診療科における心療内科」第15回日本心療内科学会総会・学術大会シンポジウム（平成22年11月21日：岡山コンベンションセンター）
3. 竹内啓祐「大学病院総合診療外来におけるCOPD疫学調査」第3回日本病院総合診療 医学会学術総会（平成23年9月9日：東邦大学医療センター大森病院）
4. 松本正俊、横林賢一、竹内啓祐、田妻進「総合医と研究について：総合医はどこまでやれるのか？」第3回日本病院総合診療医学会 東京2011年
5. 松本正俊「医師供給の不足は医師偏在を悪化させるか？広島県と長崎県の比較研究」（平成24年10月25日）第71回日本公衆衛生学会（山口市）
6. 竹内啓祐「全国の地域医療教育プログラムの現状—全国アンケート調査結果—」（平成24年7月28日）第44回日本医学教育学会（慶応大学）
7. 服部文子「中山間僻地病院における経皮的胃瘻造設（PEG）長期予後と変遷」（平成24年11月）第24回日本老年医学会中国地方会（広島市）
8. 竹内啓祐「大学病院総合診療外来におけるCOPD疫学調査—COPD患者の禁煙においては糖尿病発症への注意を要する—」（平成25年3月2日）第6回日本病院総合診療医学会（岐阜市）
9. 松本正俊、鹿嶋小緒里、竹内啓祐「通院時間が人工透析有病率に与える影響：地理情報システムを用いた広島県での分析」（平成25年10月24日）第72回日本公衆衛生学会（津市）
10. 竹内啓祐「2030年の地域医療」（平成25年7月20日）第16回日本病院脳神経外科学会（福山市）
11. 服部文子、阿嶋猛嘉「療養場所の希望に関するアンケート調査 中山間僻地の在宅医療のニーズを知る」（平成25年6月6日）第55回日本老年医学会学術集会（大阪）

①ふるさと枠学生のキャリアプラン作成

広島県、広島県地域保健医療推進機構、広島大学医学部および広島大学病院の各診療科と協議しながら、ふるさと枠学生の将来のキャリアプランを作成しました。ふるさと枠学生が将来に対して不安を感じる事無く、入学時の約束事を遵守しながら意欲を持ってキャリア形成していける事が最も重要ですが、中山間地域の医師確保が確実に担保され、かつ広島大学病院の教員も納得して卒後の指導・教育ができるよう十分検討致しました。専門医育成プログラムを有する広島大学病院27の全診療科に診療科別キャリアプランを作成して頂き、また、ふるさと枠担当者も決めて頂きました。ふるさと枠学生が当該診療科を選択した場合の将来像がかなり鮮明にイメージできるようになったと思われます。

②地域医療総合診療懇話会

広島県および本学総合内科・総合診療科と協力し、地域医療総合診療懇話会を計5回開催し、総合医の育成、地域医療の現状、地域医療教育などのテーマについて外部講師を招き、一般公開の講演会を行いました。

第1回は平成22年7月10日に広島大学医学部を会場に下記の内容で行いました。

- ・「社会における総合医・プライマリ・ケア医の役割について：研究レビュー」
- ・「広島大学病院家庭医療専門医養成コースについて」
- ・「地域医療実習で学生が感じた素朴な疑問に総合医が答える」



第2回は平成22年12月11日に広島大学広仁会館において、夕張希望の杜の村上智彦先生をお招きして「地域医療再生の方程式」という演題で講演していただきました。広島大学長や県庁職員、市町の首長も出席されテレビや新聞などでも報道されました。地域医療崩壊が叫ばれる中大変反響が大きく、その後府中市においても同様の講演をされました。



朝日新聞 2010. 12. 16 (木)

第3回は平成23年7月9日に広仁会館において開催しました。45名弱の方々に出席していただきました。県立広島病院総合診療科の岡本、広沢両先生より困難症例を提示していただき症例検討をした後、総合診療科の溝岡講師より「より良い指導医のあり方」という演題で講演していただきました。また、地域医療実習、地域医療研修、地域医療セミナー等地域医療教育に関するネットワークの設置に関して皆さんの意見を伺い、賛同していただきました。



第4回は平成23年12月11日にシェラトンホテル広島において、福井県おおい町名田庄診療所の中村伸一先生をお招きして「地域に“寄りそ医”20年 ～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～」という演題で講演していただきました。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演された中村先生の心温まるお話に、一般県民を含む130名以上の参加者が耳を傾けました。ひとつの地域で医師として20年やっていくことの重み、その喜びと苦悩が滲み出る講演でした。





第5回は平成24年12月8日に広島グランドインテリジェントホテルにおいて、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講座教授の前田 隆浩先生をお招きして「地域医療教育の今後の在り方」という演題で講演していただきました。離島が多いという地理的特性ゆえに、長崎大学は以前から地域医療教育に力を入れており、この懇話会では離島における先進的な取り組みについてご紹介いただきました。また、前田先生は全国地域医療教育協議会の会長も務めておられ、全国の大学で行われている地域医療教育の現状や今後の見通しについても説明いただきました。



③医学部FD・地域医療学講演会

地域医療教育に関わる教員の能力向上を目的としたFD (faculty development) や海外の専門家による講演会を実施しました。

第1回FDは平成22年12月22日、元WHO西太平洋事務局長で現自治医科大学教授の尾身茂先生をお招きし、「地域医療から国際医療へ：Think globally, act locally」と題した講演をしていただきました。講演中、尾身先生はご自身が陣頭指揮をとられたポリオ撲滅作戦について説明され、アジア地域からの撲滅に関する苦労話や秘話などもご紹介いただきました。また、平成21年に猛威をふるった新型インフルエンザについても、わが国がとった対策がどのような効果を挙げたかについて詳細な説明をいただきました。最後に、地域医療から国際医療へとキャリアを積まれたご経験から、ふるさと卒学生にエールを送っていただきました。



第2回FDは平成23年3月26日に「より良い地域医療実習のために」と題して開催しました。5年生の地域医療実習の協力病院の院長、指導医の先生方にお集まり頂き、各種報告や具体的な方略あるいは教育目標などについて検討しました。学内の先生方からも御意見を頂きました。また、実習学生の優秀レポートの選定を行いました。



第1回地域医療学講演会は2012年2月14日、広島大学医学部において開催しました。講演者はオーストラリアLa Trobe大学地域医療学部長のJane Farmer教授。演題は「オーストラリアとスコットランドのへき地医療」「へき地における医療者主導の社会起業」の2題でした。

広大な国土を持つオーストラリアと、島国であるスコットランド。それぞれのへき地医療の類似点、相違点を分かりやすく説明してもらいました。続いて社会起業の話がありました。社会起業というのは、ボランティア、NPO活動、企業活動等によって地域社会を活性化することを意味します。平たく言うと「まちづくり」です。Farmer教授がSocial Science & Medicine等に発表された研究をもとに、英国とオーストラリアのへき地において、医療者が主体となって社会起業を展開した事例の紹介がありました。

講演後は吉栖医学部長をはじめ、参加者全員から質問があり、活発な議論がありました。





第3回FDは平成24年3月に、地域医療実習等に関わっている施設の代表者に集まっていただき開催しました。各施設の1年間の報告とともに、学生からの逆評価やアンケート結果を分析し、今後の課題を検討しました。来年度に関しては、学生に対して全施設において、高齢者総合的機能評価をさせるといった目標が設定されました。また、各病院長の評価に基づいて学生の優秀実習レポート賞を決定しました。（ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、JA吉田総合病院、JA尾道総合病院、府中北市民病院）



第4回FDは平成25年3月に行いました。来年度に関しては、学生に対して全施設において、主治医意見書の記載をさせてみるといった目標設定や各評価やアンケートの見直しが行われました。また、各病院長の評価に基づいて学生の優秀実習レポート賞を決定しました。優秀レポート学生には賞品を授与し、レポートは公表する予定です。今回も広島県地域保健医療推進機構による若手医師等育成支援事業の助成金をいただき実施しました。（ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立みつぎ総合病院、三次中央病院、JA尾道総合病院、府中北市民病院広島西医療センター、寺岡記念病院）

④第一回中四国地域医療フォーラム

中四国地方では、県による寄附講座がすべての県に設置され、それぞれ地域枠学生を抱えています。当講座の主催により、平成22年10月30日リーガロイヤルホテルにおいて、中四国全県の県庁医療政策担当者および大学地域医療関連講座教員が初めて一堂に会して親睦を深めました。自治医科大学高久史磨学長の基調講演に引き続いて各講座教授が現状と課題を報告し、その後ワークショップ形式で地域医療教育のあるべき姿について話し合いました。その後もこのフォーラムは毎年開催されております（平成23年度岡山大学、平成24年度愛媛大学、平成25年度島根大学主催）

地域医療早期の教育を

中四国で中四国9大学取り組み報告

フォーラム

「中四国地域医療フォーラム」が30日、広島市中区のホテルであった。医師不足が深刻化する中、中山間地域や過疎地などで働く医師の育成に取り組む9県の大学や行政関係者50人が参加。早い段階で医学生が地域医療への関心を高める方法などについて意見交換した。（金川志）

広島大医学部（南区）に所属する取り組みを報告した。岡山大医学部の竹内だ。各大学では、大学本部と連携し、初めから地域医療に関与し、学生に地域医療の現場に慣れさせること条件として、9大学が「地域医療」をテーマに、サークルや「地域枠入学」など

「中四国地域医療フォーラム」が30日、広島市中区のホテルであった。医師不足が深刻化する中、中山間地域や過疎地などで働く医師の育成に取り組む9県の大学や行政関係者50人が参加。早い段階で医学生が地域医療への関心を高める方法などについて意見交換した。（金川志）

各大学の取り組みを報告した。岡山大医学部の竹内だ。各大学では、大学本部と連携し、初めから地域医療に関与し、学生に地域医療の現場に慣れさせること条件として、9大学が「地域医療」をテーマに、サークルや「地域枠入学」など

各大学の取り組みを報告した。岡山大医学部の竹内だ。各大学では、大学本部と連携し、初めから地域医療に関与し、学生に地域医療の現場に慣れさせること条件として、9大学が「地域医療」をテーマに、サークルや「地域枠入学」など

中国新聞
2010. 10. 31



⑤日本医学教育学会と医学教育セミナー

第23回日本医学教育学会大会が広島大学医学部の吉栖医学部長を大会長として開催され、当講座は「地域医療教育の新たな展開」と題したシンポジウムを企画・実施しました。卒前地域医療教育のあり方、キャリアプラン構築や支援の方法など地域枠学生にまつわる諸問題を国内外のエビデンスも交えて議論しました。当講座スタッフが座長とシンポジストを務めました。

また、この学会に先立って行われた第38回医学教育セミナーとワークショップが広島大学で開催され、当講座は「魅力アップのための卒前地域医療教育」というタイトルでワークショップを担当しました。全国の大学の医学教育関係者が集まり1月22日および23日に議論を重ねました。帝京大学の井上和男教授に共同企画者となっただき、岡山大学の佐藤勝教授にも協力していただきました。地域医療への関心を高め、面白さ、やりがいを学生に伝えるにはどのような方略が有効か、といった内容でディスカッションしました。



⑥全国地域医療教育協議会

地域医療臨床実習の実施を求めた「医学教育モデルコアカリキュラム」の改訂、1,300名を超える地域枠入学者、地域医療再生計画予算措置に関連した地域医療関連寄附講座の設置などにより全国的に地域医療教育の機運が高まっているのを受け、平成23年7月に地域医療教育の向上、普及、研究を目的として全国地域医療教育協議会が設置されました。現在42大学が機関会員として加盟しています。当講座の竹内が世話人兼監事を担当しています。またこの協議会の研究プロジェクトである「地域枠学生の進路に関するコホート研究」の研究本部を当講座が担当し、現在研究実施に向けて準備しています。

①地域保健医療推進機構準備委員会

広島県、市町、広島大学、県医師会が連携して、地域医療の確保を総合的に推進する「広島県地域保健医療推進機構」を設置する準備として、上記委員会が平成22年6月より開催されました。当講座の竹内が委員を務めました。またこの委員会のワーキンググループの座長を竹内が担当し、松本も委員を務めました。この準備委員会での検討を経て、平成23年度中に財団法人として広島県地域保健医療推進機構が設立されました。



②広島県地域保健医療推進機構

推進機構は、医師確保や配置調整、人材育成などを一体的総合的に実施する財団法人として平成23年7月に設置されました。推進機構が開催する地域医療推進ワーキンググループ会議、若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県へき地医療支援機構運営委員会などの委員を竹内が務めています。また、ふるさと枠の夏の地域医療セミナー、冬合宿、地域医療総合診療懇話会など、毎年多くのイベントを当講座と機構が共催しています。こういった公的な委員会や行事以外にも、ふるさと枠の運営について当講座と機構は密な連携を行っています。

③広島県地域保健対策協議会（地対協）

広島県地域保健対策協議会（地対協）の地域医療従事者対策専門委員会（竹内、松本）、地域ケア促進専門委員会（竹内）、医療を支える環境づくり特別委員会（竹内）、地域医療を支える総合医育成の環境整備検討特別委員会（松本）医師不足対策委員会（竹内）の委員として協議に参画しました。また在宅医療体制検討特別委員会では竹内が委員長を務め、在宅医療推進医当りリーダー育成研修会にも関わりました。

④医療と介護の連携推進委員会

広島市において、医療と介護の連携強化を目的として、市内8区の区地対協担当者が参集し協議を実施しました。平成24年度、25年度併せて計8回委員会を開催し広島市の地域包括ケア体制はかなり進展しつつあります。竹内は委員長を務めました。

⑤地域包括ケア推進センター

平成24年6月に山口昇先生をセンター長として広島県地域包括ケア推進センターが設置され、竹内は多職種連携推進ワーキングチームリーダーを務めました。チームケア推進モデル事業や多職種連携推進研修会の企画に参画しました。平成25年度からは看取り検討部会を設置し竹内は委員長を務めています。

⑥国診協老人保健福祉調査研究会

上記研究会の委員を竹内が務め、平成25年度は「地域包括ケアの円滑な実施に向けた医療と介護の一

体的な提供に関する作業部会」委員を担当しました。

⑦中山間地医療機関への診療支援

地域医療実習受け入れ機関である庄原赤十字病院、神石高原町立病院、安芸太田病院、公立世羅中央病院の外来診療の応援を週1～2回行いました（外来実習指導を兼ねて）。また当直医不足である神石高原町立病院（月4回程度）の夜間当直支援も行いました。

⑧広島県医師会在宅医療推進委員会

平成25年度より上記委員会委員長を竹内が務め、在宅医療推進拠点事業、在宅医療推進医等リーダー育成研修に関わりました。